

平成25年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成25年7月14日（日）
午前8時50分～午後3時35分
場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜垣委員長、齋藤（秀）委員、齋藤（き）委員（事業番号2から欠席）、
西川委員、小友委員、木田（多）委員、木田（直）委員、工藤委員、
長内委員、小林委員 ※5名欠席
市民協働政策課 櫻田課長、三上補佐、白戸主幹、工藤係長、對馬主査、佐藤主事、
阿保主事

1 組織会

＜委員長・副委員長の決定＞

- ・6月28日に開催した審査準備委員会において、委員長の予定者を檜垣貢委員、副委員長の予定者を清藤崇委員を互選していたが、正式に委員長及び副委員長としてよいか。
- ⇒異議なし。委員長は檜垣委員、副委員長は清藤委員に決定。

2 公開プレゼンテーション・審査会

＜プレゼンテーション・審査方法＞

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答（抜粋）。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

(公開プレゼンテーション無)

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

| 審 査 項 目 | |
|---------|----------------------------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる |

【審査採点】

| 区 分 | 評 価 |
|----------------------|-----|
| 審査項目に合致している | 10点 |
| やや、審査項目に合致していない部分がある | 5点 |
| 審査項目に合致していない | 0点 |

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●16：コミュニティシネマ事業「harappa 映画館」／NPO 法人 harappa

【質疑応答（抜粋）】

Q：上映する映画の選定方法を教えてほしい。市民から意見を聞いているのか。また、参加者数が1作品につき60名というのは少ない印象を受けるが、何か参加者を増やす工夫はしているのか。

A：上映作品は、弘前で上映してみたい作品や青森県出身の若手監督の作品などをメンバーでリサーチし、話し合いによって選定する。1日に何本か上映するので、映画の組み合わせで意味や面白みが出てくるような上映のプログラムなども考えている。市民からの意見は、上映内容の感想と今後の上映作品のリクエストの欄を設けたアンケートを上映後に必ず取っており、現在はその部分から意見を吸収している。映画を選定するメンバーも随時募集しているので、上映会を一緒に作り上げていきたい人がいれば、一緒に作り上げていこうと考えている。参加者数は、継続することによって伸びると思う。ここから派生して子ども向けのワークショップや映画教室も行うので、それらを体験した人たちが実際に映画を見に足を運んでくれたらいいと思う。

Q：上映会への参加者数に伸びがあったとのことだが、伸びがあった年齢層を知りたい。

また、映画の内容によっては、中学・高校にも周知するとよいのではないかと考えるが、学生に対するPR方法に何か工夫はしているのか。

A：アンケートの回答からわかる範囲だが、今までは30代までの年齢層が10%に満たなかったのが、昨年度は30%程になった。上映会の会場で見た印象でも、若い人が参加してくれていると感じた。周知に関して、学校との直接の連携は難しいため、美術の教員にポスターを送り、興味がありそうな人に渡してほしいとお願いしたことがある。1%システム補助事業として後押しをしてもらえれば、教育委員会を通して学生全員にチラシ等を配付することをお願いしやすくなるので、今後考えていきたい。

Q：申請3年目の事業だが、昨年までの事業と大きな変化がないことが気になる。そろそろ団体の思いが点から面になるような事業展開をしても良かったのではないかと。1%システムで支援されて事業を続けたとしても、固定化してしまうことが懸念される。

A：事業の継続性と絶えず変化していくという両方の面を持っていかなければならないと思う。今は事業の継続性に重きを置いているが、本事業だけでは限界があるので、りんご博覧会の映画祭など別事業へ派生させている。そのように点と点を線にしていくことが我々の仕事だと考えている。

Q：申請団体が映画を上映していることは知っているが、いつどのように上映しているかがよくわからない。映画上映会についてどのようにPRしているのか。

A：ポスターの掲示、チラシの設置、新聞の連載、テレビ・ラジオでの告知などはしているが、どうしても告知が届かない部分がある。それらの部分を補うためにも、メンバーにいろいろな人を関わらせていこうと思う。100%広報することは難しいが、情報が欲しい人のためにウェブでの告知を行っている。今後の有効な手段として、回覧板を考えている。

【主な意見】

- ・情報がたくさんある中で、受け手である私たちが情報を正しく得る方法などを、映画を通じて学ぶことは、教育の面からも価値のあることだと思う。
- ・50万円の補助金を使って事業を行うので、ある程度の集客や娯楽性は必要なのではないか。ある一部の人のための映画館となるのは良くないと思う。
- ・弘前市では映画館が減ったことによってマニアックな映画を見る機会が減った。万人受けはしなくとも、映画好きの人が見たいというような作品を上映するスタンスは変えないでほしい。
- ・学校の教員や映画に熱心な人を試写会に呼ぶことで、上映する映画が評判になり集客が望めるのではないかと。集客をアップさせる部分に1%システムの補助金を活用するなど、今までと違うことをしないと事業がしぼんでいくような気がする。
- ・会場が土手町なので、昨年の事業内容には上映後に会場周辺でお茶を飲んで行けるような工夫をするなど、土手町に対する波及効果についても含まれていたが、今年はその部分がなくなっている。今後も事業に膨らみを持たせてほしい。

【採択結果】

合計点 73.0点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.0 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 6.5 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 8.0 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 6.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 7.0 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 7.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 8.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.0 |
| 合 計 | | 73.0 |

● 17：地域の文化資源を活かした生活の再発見プロジェクト「岩木遠足 2013」

／岩木遠足実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：県外からの参加者が8割で、県外の人に遠足のファシリテーターを依頼するが、1%システムを使ってこの事業を実施することで、弘前にはどのようなメリットがあるのか。

A：岩木遠足は、ファシリテーターが感想を述べたり質問したりすることについて考えていく体験型のイベントのため、イベントの中での体験が地元のスタッフが考える機会となり、それが地域に還元されていくというメリットがある。また、地元にも素晴らしい人たちはたくさんおり、そのような人たちとも一緒に活動しているのだが、ファシリテーターについては、県外からの視点、各分野の一線で全国的に活躍している人の視点から見た新しい価値観を我々も勉強させてもらって、今後に生かしていくというかたちを取っているため、県外からファシリテーターを呼ぶことは必要だと考えている。以前依頼したファシリテーターには、この岩木遠足での体験を書籍等で紹介していただいたことがある。そういう面でも全国でPRしていただいている。

Q：市民も参加するようなかたちを考えてほしい。以前参加したことがある人からは食をテーマとした遠足のコースについて良い評判を聞いたことがあり、弘前の農作物は質が高いため、今回の事業内容でも食について取り上げる予定はあるのか。

A：9月に大きなイベントを1回実施して終わるのではなく、年間を通して小さなイベントをシリーズ化して続け、地元の人にも参加してもらうように考えている。小さいイベントに参加することによって、地域住民がゲストではなく、地元スタッフとして受け入れる側の「ホスト」になってほしい。また、岩木遠足ははじめてから食がテーマになっている。今回はスタッフから自然農法に取り組んでいる人が面白いので会いに行こうという話があり、プログラムに取り入れた。以前縄文をテーマにしたときも、縄文土器自体が食器なので、食とつなげることができた。

Q：提案のあった本事業（9月開催予定）の関連イベントが7月にも開催されるようだが、参加者はどのくらいなのか。本事業とは別個に募集することになるのか。また、県外からの参加者が多いということは、県外で広報してもらえるので、弘前の観光に関するチラシなども配ってほしい。

A：7月の関連イベントの参加者は6人で、9月のイベントとは単独でも継続でも参加できるようにしたい。県外からの参加者が多いことをプラスに捉えている。朝早くからのイベントのため、県外からの参加者は前日から弘前に泊まることになる。そのため、今年からは参加者には事前に資料や市内のパンフレットを配布し、それを参考に自分たちの遠足を楽しんでほしいというアプローチの仕方を考えている。

Q：昨年は予算の段階で協賛金を10万円としていたが、今年は協賛金を集めないのか。

A：昨年、実際はスタッフが動けずに、協賛金を数万円しか集めることができていなかった。今年は昨年までとは開催内容を変え、年間を通したイベントにしたいと動いていることもあり、スタッフが遠足のプログラムを構成する部分に重きを置きたいので、協賛金をなくした。以前参加者に話を聞いた時に、参加者の負担をもう少し多くしても良いのではないかという話があった。遠足の参加費ではなく、事業を応援する気持ちで払っているという意見があったので、参加費が協賛金でもあると捉えている。

Q：昨年事業が廃止になった理由は、参加者の集まりが悪く、収支のバランスが取れないことだった。今回、参加費について、事業を応援するための協賛的な要素を含んだ金額を設定し、前回よりも増額しているが、参加者が集まらなかった場合、また事業が実施できなくなることはないか。

A：昨年はイベントの中身を深めようとスタッフが無理をしたため、最終的にコース設定に時間がかかり、告知が遅れたことが事業廃止に至った原因だった。今回は我々の力で確実にできることをしようということで、選択できる遠足コースの本数は減った（3コース⇒1コース）が、中身を深めることができた。前回まで行っていた音楽イベントは、出演料や音響などの経費がかかり、多くの市内の人たちの参加が必要となることから、リスクが高いため今年には行わず、参加者とスタッフやファシリテーターが交流できるように作り上げてきた。また、スタッフの経済的負担が減るように、バザーを行ってはどうかという意見があるなど、マイナス面を補う作業をしている。

【主な意見】

- ・イベントのテーマの中に食があるが、県でも短命県を脱したいということで「あおもり食命人」の育成を行っている。市内でも多くの人が参加しているので、今後そういった

人材も活用してほしい。

- ・市民による観光事業。市民税を利用するのだから、市民がたくさん参加して欲しいという考えもあるが、このような事業の場合、県外の人を対象として、県外の参加者や講師の方に弘前をアピールしてもらおうという考え方ができると思う。市民税を使って、市にお金を落としてもらえるツールと捉えることもできる。
- ・地元の人が、ゲストから観光客を迎える側のホストになってほしいと考えているという話があったが、ホストになるためのトレーニングの場が事業内に設けられていれば、地元にも及ぼす効果がより大きくなると思う。
- ・資金面での課題を解決するために、通年で事業をすることを考えているのであれば、通年の事業の間に、ある程度の蓄えができるようになればいいと感じた。
- ・県外からファシリテーターを招くことによって、地元の人が無気なく感じている弘前市の魅力を示唆してもらうことができ、市民力のアップにつながると思う。

【採択結果】

合計点 72.5 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.0 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 6.5 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 7.5 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 6.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 7.0 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 8.0 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 6.5 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.0 |
| 合 計 | | 72.5 |

● 21：山岸堰改良事業／国吉町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：完成した堰の保守管理はどのように行っているのか。

A：堰の担当で管理している。管理費は堰の関係者から集める。

Q：今年で3年目の事業だが、これまで工事中に事故や問題は発生しなかったか。また、市役所とのつながりについてどのように考えているか。市役所では工事後に検査等はしているのか。

A：今まで工事をしてきて、事故や問題はない。今年は、1%システムに申請している箇所ではないが、豪雪の影響で20メートルほど堰の下が崩れ、そのままでは田んぼに水が引けないということで急きょ農村整備課に古いU字溝をもらって工事した。それで足りない部分は来年の予算で工事をしてもらうということで話をしている。工事後には市民協働政策課も現場を見に来ていて、農村整備課でも検査をしに来ていて。

Q：この堰の上流や下流は市の予算で整備しているのか。集落を通っていく部分だけが市で予算化できないということなのか。

A：工事をしている上流側は、蔵助沢川から取水できるようになっており、国吉町会と隣の館後町会との間を通るのだが、20年ほど前に側溝を入れて整備している。この堰はこれまで2度ほど改良する話が持ち上がったが、受益者負担の額が多額で断念してきた。関連事業では整備ができないと思っていたときに、1%システムでなんとかできるのではないかと考え、計画した。

【主な意見】

- ・この事業に関してはある程度の技術が必要となるため、技術を持っている人だけが参加しているが、町会・地域に広く影響を与えている堰であることや、工事をしているのが誰なのかなど、状況を多くの人に知ってもらい、関心を持ってもらうことが必要だと思う。
- ・工事等の際に危険を伴う事業なので、安全面には十分気を付けて、完成させてほしい。また、完成後には保守管理についてもしっかり考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 92.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 9.5 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 8.5 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 10.0 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 9.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 8.5 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 10.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 10.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 10.0 |
| 合 計 | | 92.0 |

● 12：道徳怪談・怪談ライブ／弘前乃怪実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業を実施するにあたり、これまでどのような準備をしてきたのか。また怪談や昔話の位置づけがどのようにされているのかを教えてください。

A：事前準備として、会場を選定しているが、怪談ライブを行う夜の部の会場には、事業内容を話したときに、最初に名乗りを上げてくれたお寺を使わせてもらうことになった。親子を対象としたファミリーライブ（道徳怪談）を行う昼の会場は、初回ということでわかりやすい場所、家族で来やすい場所ということを考えて選び、予約もしている。出演者については、事前に関係者や応援者と連絡を取っており、ネットラジオで全国的に宣伝させてもらう予定がある。弘前には怪談がたくさんあるのに埋もれてしまっており、有識者が会談に関する出版物を出していても若い人は目にしていない。このような地元の怪談を若い人たちに伝えていきたい。

Q：禅林街でも事業を行う計画があるが、会場周辺は道幅が狭い。車両対策はどのように考えているのか。また、舞台装置が本格的なようだが、ここまで本格的な舞台装置でなければ事業を行えないものなのか。

A：駐車場は、禅林街の奥にある駐車スペースを紹介してもらえることになっている。周辺の駐車場も、Facebookの専門ページで案内する。舞台装置は、簡素なものでも事業はできるが、話に集中してもらうなど、効果を考えたときに、それなりの舞台装置の方がより効果があると思う。舞台装置を繰り返し利用して、来年以降は経費をかけずに自立して実施したいと考えている。

Q:親子で50組を参加者数として見込んでいるが、この人数を集めるのは大変だと思う。子どもの団体とは何か連携はあるのか。

A:子ども会の関係者やPTA関係者数名と連絡を取り合っていて、チラシが出来次第持っていくと伝えている。そういった子ども会関係者を通じて広報活動を行っていく予定になっている。

Q:東京からわざわざ講師を呼び、自殺予防のための怪談ライブを行うよりも、例えば鬼の伝説など、地方の伝説や昔話を発掘していくことのほうが弘前にとって必要なことなのではないか。

A:講師については、「なぜ悲しいことがあったのか」、「何を訴えたいのか」など、人の気持ちに重きを置き、命を大切にしようという話をするのは、この人しかいないということで選んでいる。鬼の伝説については指摘のとおり、弘前には全国的にまれな鬼を祭る文化があるので、掘り下げていくと面白いと思うし、子どもたちが興味のある部分に絡めていくといいのではないかと考えている。

Q:弘前には伝説や昔話などの素材がたくさんあるが、怪談をテーマとした団体を立ち上げたときに、目標をどのように設定しているのか。今後、この怪談ライブの事業はどのように展開していく予定か。

A:弘前には怪談の素材が豊富にあるが、それらを伝えていくためには伝える人と伝える場が必要だと思う。公民館などへ昔話の語りをしに行くなど、地元のみんなが自分たちの文化を伝えるようにしたいので、新しい力を団体に入れ、経験者や有識者の参加もお願いしたい。この怪談ライブの事業は、我々の活動の中で、最初の大きな祭りという位置づけのつもりで考えている。団体の主眼は活動をずっと続けていくことで、弘前に残る怖い話・悲しい話・笑える話などさまざまな話をしていく中で、話を聞いた人たちに、人間らしい喜怒哀楽のそろった気持ちが育てばいいと考えている。

Q:命の大切さを、意外なところから訴えかけるという主旨は理解できたが、それをどのようなかたちで地域に根付かせようと考えているのか。

A:歴史や読み聞かせに興味がある人や、幼児教育に携わっている人と協力し合いながら活動していきたいと考え、情報発信をしている。また現メンバーだけでなく、これから募集して集まってくるメンバーとともに語り合う会を作りながら、地域の町会や子ども会などとも交流していきたい。内容はあまり面白おかしい部分だけを強調しすぎるとよくないので、じっくり考えなければならないと考えている。

Q:怪談を聞いてもらい「自殺しても良いことはない」と訴えかけるだけでは、自殺の予防や解決策として効果が見えにくいと感じる。怪談が自殺対策の解決策として有効だと裏付けるためにも、これまでに申請者が、自殺対策に関して知識を深める研修会に参加したことがあるのか知りたい。

A:これまではフォーラムやシンポジウムなどに興味があっても、仕事などの都合上参加できなかったが、今後は参加できるものは参加していきたいと思う。鬱についての勉強もしているが、確かに怪談は鬱に対しての直接的な対処法ではないのはわかる。今回の事業は、ま

ずは鬱になる前に、気持ちの中に、死んでも何にもならないということを意識してもらいたいという段階の事業である。

【主な意見】

- ・怪談により命の大切さを訴えるという新しい切り口はおもしろいと感じるが、自殺には様々な要因が考えられるため、怪談による自殺予防の効果が見えてこない。
- ・この事業に関わらず、県外から招く講師に対する謝礼の費用の妥当性について判断しづらいと感じる。ただし、道德につながるような民話などの掘り起こしをして、来年度以降は地元で行う参加型の事業に育っていくのであれば、その起爆剤として妥当な費用ではないか。
- ・昔はどここの地域でもおじいさんやおばあさんから怪談話を聞かせてもらっていたが、今はその機会も減っている。教育的な側面もあるため、子どもたちに怪談話を聞かせるのは非常にいいことだと思うが、弘前はお寺の街なので、県外から講師を呼ばなくてもお寺の住職の方などがたくさん話を知っていると思う。住職などに講師をお願いしても良いのではないか。
- ・1%システムには、町会のイベントもたくさん申請されているので、そういった地域に出向いて、その地域のお話を掘り起こして、子どもたちに伝えるということができればいいと思う。
- ・弘前や周辺地域に残る民話などの文化を掘り起こし、自殺予防として命の大切さを訴えるより、家族や地域社会に関心を持たせることをテーマに活動していただきたい。地域の人が子どもたちに伝えていくために、弘前の文化を学び直すことが必要だと感じた。

【採択結果】

合計点 51.0 点 <60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 10 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.0 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 5.5 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 4.5 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 3.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 5.5 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 6.5 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 5.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 4.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 4.5 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 4.0 |
| 合 計 | | 51.0 |

● 4 : ギネス記録も持つ！！津軽の笛が大集合！津軽笛博覧会

／津軽笛地域づくり実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：津軽地域のお囃子が集まって津軽笛のワークショップを行うほか、県外から和太鼓奏者を招いて特別講座やコンサートを行う事業である。ワークショップの参加団体がほとんど県内のねふた・ねぶた囃子関係の団体であるのに、県外から担ぎ太鼓の奏者を呼んでくることとの関連性について伺いたい。

A：ワークショップの内容は、まずはねぶた囃子を実施するが、事業を継続していきたいと考えているので、今後は獅子踊りなどの津軽のお囃子も取り上げていきたい。今はねぶた同士・獅子踊り同士のネットワークしか構築しきれておらず、横のつながりが薄い状態なので、この事業を通して、ネットワークを構築し、さまざまな分野の囃子を勉強していきたいと思う。講師に関しては、団体内でも地域の人だけで地域の囃子を演奏するだけでいいのではないかという意見もあったが、和太鼓奏者の林田氏は、ただ一流の和太鼓奏者だから招くのではなく、担ぎ太鼓のルーツが津軽のお山参詣であるという津軽の人間が知らないことをご存じだった。このような事実を弘前の人に広く知ってもらい、素晴らしい演奏に触れてもらいたいのので講師として呼び出すことを決めた。

A：騒音対策のために事業の時間を日中～夕方に行っているが、あえて開催場所を藤田記念庭園にした理由は、

Q：第2部のコンサートでかがり火をたいてお庭囃子をやれたら面白いのではないかと考えて会場を選んだ。それに加えて、藤田記念庭園への来場者増加のきっかけを作ることが

できれば良いと考えた。今回はお庭囃子をしたいということで会場を選んだが、来年度以降りんご公園や弘前公園を使うことがあるかもしれない。

【主な意見】

- ・三味線や太鼓は一見派手で、笛は心にしみるもの。これまで笛はあまり評価をされてこなかったように思うので、笛のワークショップを事業として考えたのは素晴らしい。
- ・事業の目的が笛指導者の質を高めて、裾野を広げていくということなので、違う分野でも一流の演奏を聞くことも必要ではないか。
- ・ワークショップを開くために津軽の各地域からねぶた囃子の講師を呼ぶことでネットワークができれば、全体のレベルも上がって、これからいろいろな展開が期待できる。
- ・地域の文化を継承していくためには、次世代を育てることと、しっかり定着させることが大切なので、指導者がキーパーソンとなる。文化の継承者として育った人がさらに次の世代をしっかりと育てるとい立場になるように事業を継続して欲しい。
- ・今回の外部講師については、担ぎ太鼓のルーツがお山参詣にあることを教えてくれたということで、逆輸入のようなものだと思う。外部の人が知っている地元の知識を取り込むことはいいことだと思う。

【採択結果】

合計点 81.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.0 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 6.5 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 8.0 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 8.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 7.5 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.5 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 10.0 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 9.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 7.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.0 |
| 合 計 | | 81.5 |

●18：ひろさきアフタースクール「人材育成」事業（市民先生養成講座）

／あんよ・せらびー共育研究会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業で行う市民先生養成講座の内容を詳しく教えていただきたい。

A：自分の得意分野など様々なテーマで、子どもたちに対して授業を行いながら放課後の子どもたちを見守る「市民先生」に多くの市民の方になってもらいたい。そのため、東京で放課後を見守る「アフタースクール」を行っている放課後NPOアフタースクールという団体から講師を招き、市民先生のスキルや、共有しておかなければならない情報を一緒に勉強する講座を開催する。自分も地域のために役に立てるのではないかと講座に参加してくれる市民が、少しずつ、口コミでも増えていけばと思い、同じ内容の講座を8月から来年の2月にかけて3回企画している。

Q：今後、放課後NPOアフタースクールの弘前型を行っていくための人材を育成する事業という捉え方で良いか。

A：東京と弘前では、私立学校の数など、環境が違うので、東京で行っていることをそのままできるわけではないが、理念を共有し、弘前市だからできる「アフタースクール」ということで、進めていきたいと考えている。そのために、ただ子どもたちに教えるだけでなく、子どもに寄り添える市民先生になって欲しい。

Q：養成講座への参加人数は30人と想定しているが、集まる見込みはあるか。

A：アフタースクールの認知度が低いことは理解している。とにかく今年度は、市民先生をしっかりとしたかたちで養成して、ゆくゆくは各地域の中で子どもたちと関わるようになってほしいという思いから、同じ講座を3回繰り返し行う。子ども会育成会や青少年委員会など、町会の人たちとも気持ちや理念を共有し、ネットワークを作って活動したい。また、公民館や市子育て支援課、生涯学習課、学校指導課や、教育現場の教員とも情報を共有して、できることは一緒になって活動したいとも考えている。

Q：市民先生の範囲が広い印象を受けたが、最終的にはどのような条件で選定するのか。また、市民先生を選定して、その後どのように仕組みにしていくのか。

A：養成講座を受講し、自分の意志でアフタースクールに関わりたと思った市民一人ひとりが、市民先生になることができる。また、市民先生としては関わることは難しいが、スタッフとして関わりたいという人も増えてほしい。組織については立ち上げたばかりで、思いだけで動いている最中だが、各地域・小学校区にアフタースクールの基盤ができ、各地域にリーダーができて、地域の子どもの遊びや学びの中でほめてあげる空間を作りたいと考えている。

【主な意見】

- ・学童保育の対象外になった子どもや不登校の子どもなど、放課後の子どもたちを見守る人材を育成する事業。反抗期にあたる子どもたちを抱えることにもなると思うので、子どもの意見をじっくり聴くような組織を作っていく必要がある。
- ・なかよし会の対象にならない子どもや、部活に参加しない小学校高学年以上の子どもたちの受け皿となる場所は、弘前市にもあるが全てを補てんしているとは言えない。子ど

もたちの受け皿となる場所ができることは意義がある。

- ・放課後の児童対策は、どうしても市街地に偏りがちになるので、市街地から離れた地域にもまんべんなく広がるかどうかは課題だと思う。
- ・市民が子どもたちを預かるために必要なことを学習することは理解できるが、事業費に占める講師謝礼と旅費の割合が大きい。
- ・まだ事業計画としては、人材を育成するという本当の初期段階であると感じるが、実際に学区ごとに子どもたちを預かる人材が育って、子どもたちが放課後に帰る場所・相談する場所・泣ける場所ができていくのであれば、今後の展開としては面白い事業だと思う。
- ・子どもたちを見守る人材の育成は必要。きちんと講座などを受けて、「この人であれば預けられる」と安心できる人でなければ、子どもの預かりは成り立たないと思う。

【採択結果】

合計点 80.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.0 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 8.0 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 9.0 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 6.5 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.0 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 9.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.5 |
| 合計 | | 80.0 |

● 2 : 通学路等における児童の見守り活動／堀越子ども見守り隊

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今まで、地域の交通安全委員会、青少年育成委員会、学校の P T A との連携をしていなかったため、今年ベストなどを揃えたいということなのか。

A : 今までも連携していたが、見守りをする際に身に付けている腕章がバラバラだった。見守り隊として同じベストを着用することで、子どもにもよりわかりやすい活動ができるのではないかと思います。

Q：学校から見守り隊に対して、登下校の問題点などの情報提供はあるのか。

A：通学路や危険箇所について、学校と連携がなされている。幅が狭く危険な道路は安全面を考えて、遠回りになっても大きい道路を通学路にしているし、見守り隊でも大きい道路を通るように指導している。

Q：地区の交通安全に関して、見守り隊がベストを着用することで、地区としての問題は大方解決するのか。

A：100%解決するわけではないが、大幅に前進すると考えている。見守り隊は、学区内の町会長全員が顧問として名を連ねており、積極的に呼びかけをしてくれている。堀越小学校だけでなく、となりの豊田小学校や第五中学校の情報もメールで交換しており、広域なネットワークができているので、子ども見守りに特化した良いモデルとなっているのではないかと思う。

Q：来年度も補助金を要望しているが、来年はどのような事業を行うのか。

A：来年度は、標語やポスター等を作り、啓発活動をしていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・他の小学校では、小学校のバザーの売り上げを資金としてベストを作ったという例もある。ベストの追加作成が必要になるかもしれないので、資金面で参考にしてほしい。
- ・見守り活動をしている人たちが持っている情報を、学校と家庭同時に発信していただきたい。
- ・見守り隊の人の配置については、見通しの悪いT字路や危険なところに分散するなど、工夫していけば、より安全・安心が高まるのではないかと。
- ・見守り隊が日頃から目立つ存在になることによって、抑止効果を高めることが重要なので、ベストの色も目立つ色にしてはどうか。
- ・ベストにつけるキャラクターの図案を子どもたちから募集することによって、子どもたちを巻き込んでいるのが良いと思う。

【採択結果】

合計点 88.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.9 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.8 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 9.4 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 10.0 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 8.3 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 9.4 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.9 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.8 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 9.4 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.9 |
| 合計 | | 88.9 |

● 1 4. ひろさきの街の水彩写生を通じて街を愛する子供たちに

「みんなで描こうひろさき百景」／津軽ひろさきマーチング委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：「マーチング委員会」とは、全国組織があって、そこで行っている事業のパッケージを弘前でも行うということなのか。

A：一般社団法人マーチング委員会という団体があり、そこに加盟はしているが、全国組織ということではなく、各地域単体で活動している。活動のノウハウは各地域のマーチング委員会を出し合っており、年に2回マーチング委員会の全国大会が開催され、その場では各地で行った活動の事例発表が行われる。今回の事業も、他地域の事例を参考にしているが、我々も全国大会で事例として発表すれば、弘前をPRすることができると思う。

Q：今後の展望について教えていただきたい。

A：イラスト教室の講師をお願いしている上野氏には、これまで弘前のさまざまな風景イラストを20点ほど描いていただいているので、そのイラストを多くの人に見てもらいたい。現在郵便局で配っているポケットティッシュにそのイラストが使われているので、可能であれば、切手の絵柄として採用してもらい、全国を飛び回ってもらえればと考えている。イラスト教室では、上野氏のタッチを児童のみなさんに伝えたい。また、地元の作家さんともコラボレートして、絵の面白さや街並みの大事さや歴史といったものを伝えていきたい。

Q：弘前市では、「私の好きな・大切にしたい弘前の景観」を市民に向けて募集しているが、

そういった事業との連携は考えられるか。

A：前回イラスト展示会を行った際、「私の好きな・大切にしたい弘前の景観」について集計した資料を市の担当課からいただいた。この企画について、一緒にできれば良いと考えてはいるが、実現には至っていない。これからは、市民の方々の意見を取り入れて、イラストを増やしていきたい。

【主な意見】

- ・全国各地にマーチング委員会があり、今回はほかの地域の事業を参考にしているとのことだが、今度は弘前が参考にされることがあるかもしれない。
- ・水彩画は、小学生から高齢者まで幅広い年齢層が対象になるので、いろいろな可能性を秘めているように感じる。
- ・水彩画はタッチが優しく、写真と違った良さがあると思った。
- ・ポスター・チラシ等の印刷は、団体の事務局がある印刷業者以外の会社に依頼し、透明性を確保して事業を実施していただきたい。
- ・今後はスポンサーをつけることによって収益が見込めるようになり、協賛金等で展開していけるような事業だと思う。

【採択結果】

合計点 70.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

（ただし、ポスター・チラシ等の印刷は、団体の事務局がある印刷業者以外の会社に依頼すること。）

※審査委員 9 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.2 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 6.1 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 5.6 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.2 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 6.7 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.3 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.9 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 6.7 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 6.1 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.2 |
| 合計 | | 70.0 |

7月14日審査結果（20事業のうち8事業）

| | |
|----------|-----|
| 採択とする事業 | 7事業 |
| 不採択とする事業 | 1事業 |

平成25年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成25年7月15日（月）
午前9時00分～午後3時40分
場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、齋藤（秀）委員、清藤委員、齊藤（き）委員、西川委員、
小友委員、木田（多）委員、木田（直）委員、工藤委員、宮川委員、
長内委員、小林委員 ※3名欠席
市民協働政策課 櫻田課長、三上補佐、白戸主幹、工藤係長、對馬主査、佐藤主事、
阿保主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 7月14日に引き続き審査

《審査内容》

●20：第13回どんどん祭り／どんどん祭り実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：これまで1%システムに申請があった祭りは町会主体で実施しているものが多かったが、実行委員会が主体となって申請した経緯を知りたい。

A：祭り会場は6町会が関わっている大きな公園のため、祭りをやると、町内の子どもが友達を誘って町外の子どものもたくさん来る。町外の子どもの来るのに、なぜ自分の町会だけがお金を負担しなければならないのかという意見もあったことから、町会の協力が得られなくなり、実行委員会で実施している。

Q：子どもの安全対策はどうなっているか。

A：警察や防犯委員会の人々が制服を着て会場を見回りしている。何か事故が起きた時点で祭りは開催できなくなると覚悟しているので、パトロールしてもらいながら、安全に実施できるように気をつけている。

Q：予算書を見ると使用料が大きな割合を占めている。テントや発電機の使用料は、近隣町会にお願いして無料で借りることはできないか。また、町会に要請して、協力を得ることはできないか。

A：これまでも地区の町会長を通じて、チラシの回覧をしたり、掲示板へのポスター掲示などを依頼している。テントについても、近隣町会から借りて実施しているが、数が不足している。今回、1%システムへの申請をきっかけに、再度町会に対して協力を依頼したい。

【主な意見】

- ・1町会が主催するのではなく、小学校区や近隣町会に住む有志が集まって祭りを開催している。今は実行委員会形式で開催しているが、1%システムを活用することで周囲の人を巻き込みながら、最終的には近隣町会も一緒になって祭りを開催するよう期待したい。
- ・「町会費を払っていない人は町会イベントに参加していいのか？」という議論がある中で、払ってなくても子どもたちは皆同じく参加して楽しんでもらおうという思いで祭りを進めている姿勢に公益性を感じる。
- ・開催場所である公園は市の避難場所にも指定されている。祭りと併せて防災教育をすることで、より効果が得られるのではないかと。
- ・子どもたちが楽しむための企画をするのであれば、子どもたち自らが企画することを考えてみてはどうか。子どもたちのコミュニケーションも広がり、参加者も増える可能性がある。
- ・他の町会の子どもは祭りに来てはいけないという排他的な意見がある中で、子どもを育てるといって広い立場で考えると近隣町会からの理解が得られるのではないかと。
- ・近隣町会に名義後援の依頼をしたり、案内を出して参加してもらおうなどしながら、継続実施することで、各近隣町会の協力が得られるのではないかと。
- ・子どもたちは、町会の区域に関係なく友達を誘って祭りに参加する。他の町会の子どもだからといって祭りに参加できないのはダメで、皆平等に参加できるようにする必要がある。そのためには経費がかかるため、隣接する町会から助成金や負担金などをもらった方が良くと思う。

【採択結果】

合計点 86.3点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.8 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 8.3 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 9.2 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 8.3 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 7.9 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.8 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 9.2 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 9.6 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 8.8 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.5 |
| 合 計 | | 86.3 |

● 3：下湯口・悪戸地区お山参詣実施事業／下湯口お山参詣保存会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業の実施にあたって、地区や町会を母体として団体を設立したのか。事業収入として町会費からの支援が見込めないのか知りたい。

A：1%システムを4月に入ってから知り、5月初旬に申請しようとした。町会予算にはお山参詣に関する予算を持っていないことから、今回は別団体を組織し、自力で事業を進めていくことになった。今後は町会にも補助してもらうことを検討している。

Q：お山参詣を復活させるのであれば、まずは大人が中心となって復活させてから、裾野を広げていく方法もあると考える。子ども用の太鼓からのぼりまで、最初から揃えないとお山参詣は実施できないものか。もっと自前でできることがあるのではないか。

A：今回、お山参詣を立ち上げようとしたきっかけの一つに、高齢者が参加できる行事をやりたいという思いがあった。地域にあるねぷた愛好会は30代から40代の年代で、子どもたちから高齢者まで参加できる行事は無く、過去にあった盆踊り大会や運動会といった行事も、下湯口や悪戸地区からなくなってしまった。そのため、子どもたちのお囃子隊などにも参加してほしいと考え、子どもたち用の物品を揃えたいと考えている。

【主な意見】

- ・1%システムを活用してお山参詣を復活させた過去の採択事業を見て申請に至ったのは審査委員会としてもうれしい。しかしながら、過去の採択事業は、作業の一つ一つを子どもたちに継承していこうという部分が大きく、今回申請のあった事業と過程が異なる。

山に登ることだけを伝承とするのではなく、木を削ってご幣を作る体験や、語り部会によって地域の歴史を学ぶなど、プロセスの伝承を大切にしてほしい。

- ・無形文化財が失われつつある中で、後世にお山参詣を伝えていこうとする事業は素晴らしいことである。可能な限り手作りで、昔ながらのお山参詣を実現していただきたい。
- ・子供用の登山囃子笛・太鼓・鐘については、今後、事業を継続していく中で、参加者が会費を集めながら整えていただきたい。

【採択結果】

合計点 66.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.3 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.1 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 8.3 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 6.7 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 5.0 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.5 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 7.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.9 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 4.6 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 3.8 |
| 合 計 | | 66.7 |

● 13 : 「中野町会いこいの広場」整備事業／中野町会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 昨年からの継続事業であるが、事業を実施したことによって、町会内にどのような交流の変化があったか知りたい。

A : 若い世代は会社勤めが多くなり、農家の後継者が少なくなったことで、世代間交流が少なくなってきている。しかし、昨年事業を実施してみて、地域に参加を呼び掛けたところ若い人も参加してくれた。声をかければ若い人も手伝ってくれるんだということを確認し、事業を通じて世代間の交流も生まれた。

【主な意見】

- ・事業の目的は整備をすることによって地域の人が集うこと。作業を通じて、様々な人が交流することもあるが、地域の人が、地域の場所を地域の手で活用しようとする視点は

良いと思う。

- ・事業費にかかる1/3の額を団体が負担する予算組みで、自助努力が見える。
- ・昨年度、防災にも役立てるような話もあった。いざ何かあった時のために、また若い世代が今後草刈などで手を煩わせることがないように整備することは必要だと考える。
- ・コンクリート整備せずに自然の状態のままを維持した方が良いという意見もある。今回整備する場所は、自然を残すことを目的とした場所ではなく、みんなで集って何かをしようとする場所であり、しっかり整備することで活用しやすくなるのではないかと。整備されていないと、放置されて原野となり、活用されなくなるので、目的に合わせた整備は必要だと思う。

【採択結果】

合計点 85.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 9.6 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 8.8 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 8.8 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 9.2 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.8 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.9 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 9.2 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.3 |
| 合計 | | 85.8 |

●6：夏祭り in 原ヶ平13 / 原ヶ平町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今回の申請が2回目の継続事業であるが、1%システムを活用することによって、良くなった点や違いがあったか。

A：子どもたちの遊び場を増やすことができた。ロコミで祭りに参加する子どもが増えていて、子どもたちが増えると、おじいちゃん・おばあちゃん・お母さんなど保護者の来場者も増える。また、1%システムを活用してテントを設置した。以前は祭りの来場者が暑くてすぐ帰っていたが、テント設置により祭りが終わるまでいられるようになった。

Q：町会全員が祭り企画に参加できるように、祭り参加者にアンケートを実施するとあるが、フィードバックはどうする予定か。

A：フィードバックの方法については今後検討するが、アンケートの結果を町会総会で報告するほか、回覧板を通じて全町会に回覧したいと考えている。

Q：過去にも1%システムを使わずに祭りを実施しているので、出来る限り大風呂敷を広げず、身の丈にあった祭りを展開してほしい。

A：これまで確かに町会費だけで実施してきた。しかし、アンケートの実施や、舞台の出演者を呼ぶなど来場者を増やすための取り組みをすることで、これから徐々に発展し、地域が元気になるのではないかという思いがある。

Q：前回の1%システム申請額から今回の申請額が減っていて、自立して事業を運営しようとする姿勢が見える。どのようにやりくりしたのか教えてほしい。

A：ポスター・チラシにかかる経費を自分たちで作成したり、可能な限り予算を少なくしようと検討している。原ヶ平町会は、町会が大きい分、何かを浸透させることが難しい。総会も参加人数が少ないため、何かしらの方法で人を集めようということで祭りを開催している。子どもを中心にしながら、マンネリ化を防ぐために事業を考え、今後1%システムを活用しなくても祭りを実施していこうと考えている。

【主な意見】

- ・原ヶ平町会の祭りは、町会内の保育園や小学校など地域の社会資源がうまく活用されている。
- ・前回に比べて1%システムの申請額が1/3の額で、経費に対する自助努力を感じるが、弘前市内の多くの町会は、いろんなかたちで納涼祭などの祭りを自主財源で実施している。地域の人を呼ぶために、祭りを大きく広げることも1つかもかもしれないが、手弁当で、地域住民みんなの力を借りて参加者を広げていくなど、工夫した取り組みに期待したい。
- ・どこの町会も子どもの参加が減ってきていることが大きな問題である。子どもが参加する、子どもが楽しむ、子どもたちが地域の人顔を覚えていくという取り組みには賛成する。子どもが企画することで、子どもが興味を持ち、それをきっかけとして祭りの中身に変化が生まれ、おもしろい展開になるのではないか。
- ・町会の夏祭りのような事業は、イベントの成功自体が最終的な目的ではない。1%システム申請に至るまで、町会内で多くの検討がなされていることが重要であり、地域の活性化や世代間交流、防犯などの目的を達成するため、祭りの開催はプロセスの一つである。

【採択結果】

合計点 82.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 9.2 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 8.8 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.1 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 7.9 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.8 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.8 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 8.3 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 8.3 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.1 |
| 合 計 | | 82.1 |

● 8 : ゲートボール場及び休憩所整備事業 / 吉川町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 整備事業の参加人数が、吉川町会の世帯数と一致する。1世帯1人の参加を想定しているのか？

A : 整備する場所が、昨年、町会で購入した土地。町会民全員のものだという認識で、まずは全員で整備しようと考えた。

【主な意見】

- ・町会内のゲートボール場を整備することで、これまで他のところに練習に行っていた人も地域で練習することができる。
- ・高齢者が家に籠らずに、外に出て体を動かすための場所であれば、整備することは大切なことである。

【採択結果】

合計点 85.0 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 9.6 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.5 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 9.2 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.9 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 9.2 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.8 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 7.9 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 9.2 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.3 |
| 合 計 | | 85.0 |

● 9：古都弘前きものde 散策／青森県美容業生活衛生同業組合 弘前支部

【質疑応答（抜粋）】

Q：着付け師の予算が計上されているが、構成員以外の人か。

A：構成員以外の人で、他の団体に着付け師の委託をしている。

Q：今回の事業は着物を着て散歩することがメインであるように感じる。お茶やお花などの着物に似合う体験を事業に入れると良いのではないか。

A：体験型事業の検討をしたが、参加想定人数が100人であり、場所や日程の関係から今回実施することは難しいと考えた。今後、継続して事業を実施していくうえで検討していきたい。

Q：参加者は自分で着物を用意し、無い人は団体が着物のレンタルを紹介すると説明があり、着物レンタル会社に対する利益供与と感じられる。

A：最近ではインターネットでも安価に和服を購入できることから、参加希望者には多方面から着物の購入・レンタルについて説明をする予定。他市の事例を見ると、同様の企画で貸衣装、着付けを含めたセットを用意している事業もある。当初は着付けセットを用意しようと検討していたが、1%システムを活用する場合は団体の収益事業になってはいけないと指摘を受け、団体の収益と捉えられる企画は全て外した。

Q：着物を着たいという人が着る機会を作ることが大事なことである。美容業の組合が地域に出て、生活者と一緒になっていかないといけない。秋のまつりが今一つ盛り上がらな

いと感じるのは、住民が見る側にだけ立っているのであって、住民そのものが観光の対象になるんだということを、言うことは簡単だがやることの難しさがあると思う。団体のミッションを聞かせてほしい。

A：青森県美容業生活衛生同業組合は組合員のための組合で内向きな組織であった。できれば社会的な責任を果たし、美容業の業界の中でも多くの貢献をしていきたいと思い、今回1%システムを申請し、多くの業界のつながりの基になっていきたいと考えた。

また、着付けは業界の中では大変大事な技術で、日本の文化をずっと伝えていくという意味でプライドを持ってやっている。その技術を内向きではなく、外向きに見せていきたいと思って1%システム申請に至った。

【主な意見】

- ・最初は着物を着慣れていなくても、事業をきっかけに和装を着て外に出てみることで、着物に興味を持ちだす人が増えると良い。弘前のまちは洋館や歴史的建造物が残っているまちなので、普段から和装で歩く人が増えると市民としても観光客としてもイメージが良くなる。
- ・着物も文化として伝承していかなければならない。着物を着る人がいなければ着付けも伝わっていかない。やってみる価値がある。
- ・弘前全体の着物文化の底上げにつながっていく。

【採択結果】

合計点 78.3 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.9 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 7.5 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.1 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 6.7 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.8 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.3 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.9 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 7.9 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.3 |
| 合計 | | 78.3 |

● 10：津軽民謡りんご節世界大会／津軽民謡りんご節世界大会実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：1%システムを活用した団体で、津軽山唄・謙良節を保存していくため、全国大会を実施する事業がある。そういった団体と連携をとりながら実施することは可能か。

A：山唄や謙良節は節回しが難しく、子どもたちがすぐに歌うことができない。津軽甚句から始め、りんご節、次に津軽じょんから節を歌って節回しができるようになってから山唄や謙良節を練習するのであれば良い。連携することは可能と考えるが、今回実施する事業は子どもたちに民謡を広げていくことを考えているため、りんご節をメインにして実施したい。

Q：前年に1%システムを活用せずに世界大会を開催している。今回1%システムを活用するのは、民謡に親しむ人を増やす底辺拡大や後継者育成のための講習会を実施するためか。

A：1%システムを申請したのは、子どもたちのためでもある。また、民謡だけではなく、大会本番の時、津軽三味線の大合奏も予定しているためでもある。子どもたちに向けた事前の講習会では、津軽の民謡、三味線、手踊りを予定している。

Q：世界大会という頂点思考と、裾野を広げる底辺思考の両方が事業に盛り込まれていて、規模が大きな事業になっている。1%システムは市民に還元する事業である。相反する二つの視点が入っていると効果が見えにくい。地元アイドルを大会の司会者とし、多くの要素を含めた大きな事業と、少しずつ民謡を広げていって大会参加者や観覧者を増やし、事業を育てて行くという事業と、相反するテーマが二つ入っているため、今後の事業の進め方について団体の見解を知りたい。

A：以前、台湾に行ったときに三味線をやっている人が民謡をやり始めていて、青森で歌いたいと言っていた。全国大会を何回か実施しているため、それを踏まえて世界大会とした。世界と言っても地元の民謡、地元の歌をベースにした世界大会である。津軽の民謡、津軽のりんご節を底辺から盛んにして世界に持って行こうとしている。

Q：（行政側へ）りんご公園で市主催により開催されるひろさきりんご収穫祭は同じ日に開催されるのか。りんご公園のイベントの一部に感じられる。

A：（市民協働政策課長回答）りんご博覧会を前年から開始し、その中の一つとしてひろさきりんご収穫祭が開催される。りんごに関する事業を秋にまとめて開催し、相乗効果を狙っている。それぞれの事業について、主催団体が開催内容や予算の出し方を考えて取り組んでいるため、全ての団体が市の予算を使っているわけではない。あくまでも1%システムに申請のあがった事業として審査していただきたい。

【主な意見】

- ・民謡の大会は様々あるが、事前に講習会を設けている点が評価できる。団体が独自に実施した昨年の大会の状況を見ると、留学生の参加もあるため、津軽にいるうちに民謡を覚えてもらい、母国に帰って広めてくれれば良い。
- ・世界大会という三角形の頂点を目的とする一方で、小中学生へのアプローチをすることで底辺を広げる目的もある。伝統芸能を継承するためには地道な活動が必要であるため、

小中学生に対する講習会に重点を置いて実施することで広がっていくのではないかと。

- ・りんご節は新しく、節回しもやさしい民謡。簡単な歌から子どもたちや留学生にも広めていこうということであれば理解できるが、津軽民謡部門など事業の要素が多すぎるため、狙いがどこにあるのか性格が曖昧な事業に感じる。

【採択結果】

合計点 66.8 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.3 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 6.8 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 5.5 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 5.9 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 6.4 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.2 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 7.3 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.7 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 6.4 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 5.5 |
| 合 計 | | 66.8 |

● 7 : 介護事業所生ごみリサイクルモデル事業

／特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 前年 1 % システムを活用した事業で、保育園を対象にダンボールコンポストを使って生ごみを堆肥化し、環境啓発活動を行った。リサイクルが十分進んでいないため、市民に活動を見てもらい、生ごみが多い地域を変えていくという団体の目的は理解できるが、今回の事業は介護事業所に限定している。事業所を限定して選定した経緯について知りたい。

A : いろんな形態の事業所でダンボールコンポストを実施してほしいと考えているため、できた堆肥を使う畑がなくても取り組むような仕組みが必要である。前年実施した保育所は畑があるところが多いが、介護事業所は敷地に畑がある所が少ない。畑が無いからダンボールコンポストをやらないと言われないために、介護事業所に働きかけることが必要だと感じた。

Q : 介護事業所は設置されたダンボールに生ごみを 1 週間投入し、その後団体がダンボー

ルを回収し、他の事業所が攪拌作業を行う事業計画である。なぜ介護事業所でなければならないのか知りたい。

A：一般家庭にも普及させることを検討しているため、一般家庭と同じような生ごみの内容でモデル事業を行わなければ波及していかない。そういった点で、介護事業所は一般家庭と同じ食事が提供されていると考えられるため介護事業所にした。

Q：施設に普及させて生ごみを減量させる取り組みは良いと思うが、介護事業所が生ごみを処分するのにかかる経費を削減させることができる事業であるため、1%システムを活用しなくとも事業が成立するのではないか。

A：計算上は可能かもしれないが、介護事業所でダンボールコンポストを実施している例が全国でもない。介護事業所を利用している高齢者や従業員に3か月程度作業を負担してもらって、実績を作りたい。その実績をもとに、取り組もうとする事業所を増やしていきたいため、まずは実績を作ることが必要。そのために、1%システムを活用したい。

Q：介護事業所の職員は何人もの食事を用意しなければならず、時間に追われながらの作業である。環境に意識の高い人であったとしても生ごみを仕分けしながら時間内に調理することは大変な作業であるため、事業に協力してくれるかが疑問である。

A：事業所は生ごみとそれ以外のごみの回収業者が異なるため、各介護事業所は生ごみを分けている。

【主な意見】

- ・生ごみ削減のための啓発活動は必要であると考えます。
- ・ダンボールコンポストを実施する事業所の選定や、回収・攪拌などの実施方法など、事業の目的と手段が結び付かないため、実現可能な計画で生ごみ削減の啓発活動を実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 59.5 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 5.9 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 6.4 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 8.6 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 6.8 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 4.5 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 6.4 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 5.0 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 5.9 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 4.5 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 5.5 |
| 合 計 | | 59.5 |

7月15日審査結果（20事業のうち8事業）

採択とする事業 7事業
不採択とする事業 1事業

平成25年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成25年7月18日（木）
午後6時00分～午後9時00分
場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、鴻野委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、齋藤（き）委員、
西川委員、小友委員、高森委員、木田（多）委員、木田（直）委員、
工藤委員、宮川委員、長内委員、小林委員 ※1名欠席
市民協働政策課 櫻田課長、三上補佐、白戸主幹、工藤係長、對馬主査、佐藤主事、
阿保主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 7月14日、15日に引き続き審査

《審査内容》

●5. 泉野まつり／泉野町会

【質疑応答】

Q：夏祭りは、開催日に朝早く準備するイメージがある。今回の事業計画は祭りの前日に設営して夜間警備をすることになっているが、当日準備すれば夜間警備は不要ではないか。

A：会場が泉野公園の隣で、中高生が夜遅くまで騒いだり、たまり場のようにになっているので、祭りのために作ったものを壊されると困るので、昨年実施した際も警備員を一人置いた。会場の設営については、昨年は大きなテントを13張設営するために、前日の朝10時から始めて午後3時まで作業に時間がかかったため、当日の設営は困難だと考えている。

Q：参加予定の人数が800人と多いので、騒音等の問題が出てくるかと思うが、昨年開催したときは、会場周辺から苦情はなかったか。

A：歓声上がるようなイベントやアトラクションがないため、昨年は近隣住民からも「うるさい」という意見や苦情はなかった。自動車についても、事前の回覧板で当日は会場まで徒歩で来るよう住民に周知しており、自動車の往来に関する危険や騒音はなかった。

Q：この祭りをきっかけに、町会内に「商店会」をつくるように展開を考えているという説明があったが、このことについて詳しく教えていただきたい。

A：商店会については今後の検討課題だが、今年の祭りでは町会にある企業や商店に協賛を依頼する。町会に住んでいる人だけの交流でなく、町会内にある企業等との全体的な交流を図りたい。町会には商店だけのコミュニティがないため、情報交換ができる場所を作りたいということで、商店会を作りたいと考えている。

【主な意見】

- ・泉野町会は新興住宅地で世帯数が増えている地域である。祭りは多くの人々が短時間に集まるので、安全管理についてしっかりと体制を整えていただきたい。
- ・昨年は祭りのスタッフとして、役員15人を含めた50人が参加し、今年はさらに増員する計画である。町会の活動に参加する人が多いということは町会に新しい動きが生まれるということであり、さらに町会の企業や商店が関わってくると、町会内に新しい絆や力が芽生え、市民力がアップすると思う。
- ・祭りには、隣接する町会の子どもたちも集まり、子どもたちのコミュニケーションの場になる。子どもたちは将来の町会運営を支えることになるので、コミュニケーションの場を作ることは良いことだと思う。
- ・会場周辺には夜間も営業している店舗が多く、専門家が1人いるだけで効果があるので、防犯上警備員を置くべきである。町会で対応できるものではないと思う。
- ・町会未加入の世帯や他町会をうまく巻き込んでいるので、単なるイベントではなくてコミュニティづくりや防災の下地づくりになるような活動だと思う。

【採択結果】

合計点 91.4点 ≧60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 9.3 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 8.2 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 9.6 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 8.9 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 8.6 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 10.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 9.3 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 9.6 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 9.3 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.6 |
| 合計 | | 91.4 |

● 1：城西学区安全で安心な「地域安全マップ」作成事業

／城西学区子ども安全サポート推進事業部

【質疑応答】

Q：安全マップを作成するための講師は専門家でなければならないのか。また、この事業に学校はどのように関わっているのか。

A：危険な場所や安全な場所を子どもたちに説明し、教えていかなければならないので、研修を受けてスキルアップしている人が必要になる。地域に研修を受けたことがある人がいるが、人数が足りないので、外部から3人呼ぶことにしている。フィールドワークの時は学校からも先生方が参加する。地域の人や保護者も協力してくれている。また、学校ではマップを作った5年生が、後輩に向けて説明会（発表会）を開いている。

Q：安全マップを作るだけでは地域の危険な環境を改善することにつながらないのではないか。

A：地域の安全・安心なまちづくりのためには、その地域に住んでいるすべての住民が問題意識を持たなければならない、そのための活動を地域や家庭に広げていこうと取り組んでいる。子どもたちに問題意識を植え付け、そんな子どもたちを見て地域の大人も問題意識を高めてほしいと考えている。現在、冬期間の通学路除雪をしていると子どもがお礼の声をかけるなど、子どもたちと大人が信頼し合える状態になってきているので、引き続きこのような活動を通じて地域づくりをしていきたい。

Q：学区の全世帯に安全マップを配布すると計画にあるが、配布するマップはどのようなものになるのか。

A：子どもたちは模造紙にマップを作成するが、作った大きさや形式では配布できないので、学区内を地図で表し、A3くらいのサイズに印刷する。危険な場所、安全な場所などを書き入れたい。

Q：昨年安全マップを作った際にチェックした中で、改善しなければならないと思う箇所はあったか。また、その箇所は改善されたか。

A：空き家や空き地が多くなっており、その中から2か所は改善された。万が一空き家や空き地で火災が発生するようなことがあると大変なことになる。市とも連携を取りながら進めているが、改善できない場所もあるというのが現状である。

Q：これから子どもが減少していくような状態でもこの事業を継続するのか。また、マップには過去に見つかった危険箇所などの事例は載せているのか。

A：城西学区では子どもが増えているとはいえ、弘前の状況を見ると、これから減少する可能性はある。フィールドワークは、人数が増えるとふざけ合ったりしてかえって危険を伴うため、1グループ6～7人がちょうどよい。それでも、子どもたちに地域の危険な状況を把握してもらうためにマップ作りは続けていくつもりである。地域事情は変化しており、不審者はどこに現れるかわからないので、過去の事例については掲載する必要はないと思っている。他の小学校区でも子ども目線の安全マップを作りたいということがあれば、仲間たちと駆けつけて協力したいと思う。

【主な意見】

- ・学区の町会長が団体の会員に入り、学区の町会が全面的にバックアップし、学校と連携

して毎年続けて行っている。このような事業を続けていることで、子どもたちが大人に感謝する気持ちが自然と生み出されているので、継続してほしい。今後は町会が学校と一緒に問題点を解決する方向につながっていけばいい。

- ・子どもの命や地域の危険性などをテーマとした事業を、学校行事の中に取り込むことによって、学校と地域社会がつながり、地域社会全体で地域の課題を共有する効果がある。素晴らしい切り口の事業だと思う。
- ・前年に申請した際に、作成したマップを每户配布してはどうかという意見が審査委員から出た。事業費が前回よりも多いのは、審査委員の意見を取り入れて計上したマップの印刷製本費が主であることや、これから講師となるリーダーが地区内に増えていくことを考えると、今後補助金を使わずに独自に事業を行うことができるようになるのではないかと。
- ・防犯については、住民側から発信することが少ない。行っている事業を発信していかないと社会には広がっていかないとと思うので、1%システムを利用しながら弘前だけでなく県内に情報発信して行ってほしい。
- ・近年弘前市では空き家が増えており、どんどん荒れている箇所がある。そのように荒れている場所には危険が付きまとうということを、子どもたちに意識づけることがこれから必要だと思う。

【採択結果】

合計点 88.9 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.6 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 7.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 9.6 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 8.6 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 8.6 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 10.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 8.6 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 9.3 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 8.9 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.9 |
| 合 計 | | 88.9 |

【質疑応答】

Q：題材になぜオーロラを選んだのか。なぜワークショップ形式なのか。対象はなぜ親子なのか。「この事業のここがすごい、だから弘前でやるべきだ」、という思いを聞きたい。

A：日頃から、社会問題に対する啓発活動として、親子を主体としたイベントを行っている。子どもたちの意識や関心を高めることを目的としてイベントを行っているので、子どもたちには具体的な方向性を示さずに進めており、今回は子どもたちに自然に興味を持たせることを目的にしたいと考えた。「オーロラ」は自然現象としては究極のもので、なかなか見ることができない。同じ空の上でつながっていて地球のどこかで奇跡的に起きる現象を弘前で見る如果能够できれば、子どもたちの自然に対する興味を引き出せるのではないかと考えている。

Q：事業目的の、「オーロラで自然への恐怖を払拭する。」ということについて、具体的に教えていただきたい。

A：講師を予定している人は、実際にオーロラと放射線について講演会を行ったことがある。マスコミで取り上げられている放射線は、それぞれの立場から極端な内容で報道されているが、放射線技師の経験者という立場から、人体の健康という観点で放射線の新しい知識を伝えることができる人なので、そのことによって放射線への恐怖心を払拭することができるのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・ポスターを作成し、講師を呼ぶイベントを実施するに過ぎないように感じる。事業に対する団体の熱意や、イベント開催の先にある効果が見えてこない。
- ・純粋に子どもたちにオーロラという自然現象を伝えたい気持ちは理解できたが、事業の趣旨にまとまりがないように感じる。

【採択結果】

合計点 40.0 点 <60.0 点

審査項目⑨事業の内容・規模に合った予算になっている 1.8 点<3.0 点

審査項目⑩費用対効果のバランスがとれている 2.9 点<3.0 点 ⇒不採択

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 5.4 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 3.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 3.9 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 3.9 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 3.9 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 5.0 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 4.3 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 5.0 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 1.8 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 2.9 |
| 合 計 | | 40.0 |

● 19 : 第11回ホームムービーの日/HMD 弘前

【質疑応答】

Q : 弘前の貴重な映像を後世に残していくために、家庭に残っている8ミリビデオ等のフィルムの上映会を行う事業だが、映像を残していくことの必要性が、今後より高まったときに団体で対応できるか。

A : 地域の映像は、地域に保存して地域の人が見られる状態であったほうが良いと考えているが、地域で活用するためには目録を作らなくてはならない。弘前で地域の映像目録が作られるということに協力できるのであれば、ぜひ行っていきたい。

Q : 事業の目的は、昔の弘前の映像を上映会で見てもらうことで、文化の継承をすることという捉え方でよいか。

A : 上映会では、昔の地域の様子が上映され、年配の方が映像を見ながら自然と語りだし、それを若い人が聞くことができる。文化の継承と言ってもいいかわからないが、昔の地域の様子について直接話を聞くことができるなかなかない機会だと思う。

【主な意見】

- ・震災以来、改めて記憶を記録として残そうという動きがある。8ミリフィルムの記録を見ることができる映像機器がなくなってしまい、家庭ではゴミになる可能性がある中で、フィルムを残そうという活動は大事な活動だと思う。
- ・フィルムに映っている個人にとっては「プライベート」だが、その時の服装などは、時代の風俗そのものを映しており、そういう意味では「パブリック」と言える。プライベ

ートと思えるような映像でも掘り起こし、いつまでも残していく体制が取れるようになればいいと思う。

- ・まずは8ミリフィルムの掘り起こしのための周知方法を整備し、その先のアーカイブ化に結び付けるためにできるところから一步一步行っていくということなので、1%システムに非常に合っている事業だと思う。

【採択結果】

合計点 80.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.6 |
| | ② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている | 8.2 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえている | 7.9 |
| | ④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている | 7.5 |
| 実現性 | ⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である | 7.5 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 9.3 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる | 9.3 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 8.6 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている | 6.1 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.9 |
| 合 計 | | 80.7 |

7月18日審査結果 (20事業のうち4事業)

採択とする事業 3事業
不採択とする事業 1事業

2次募集事業の審査結果 (20事業) 7月14日・15日・18日審査合計

採択とする事業 17事業
不採択とする事業 3事業